

ブラジルの金利引き上げについて

2015年6月4日

6月3日（現地時間）、ブラジル中央銀行は、定例の金融政策委員会において政策金利（翌日物国債レポ取引金利：Selic）の0.50%引き上げを全会一致で決めました。これで同国の政策金利は13.75%となりました。

利上げは6会合連続となりますが、市場関係者の多くが今回の利上げを予想していたこともあり、現在のところ市場への影響は限定的となっています。

《金利引き上げ決定に至った経緯について》

連続利上げ実施の背景としては、これまでと同じで①インフレ抑制、②自国通貨の水準安定が挙げられます。

①ブラジルではインフレ抑制のため高金利政策を継続する必要があります。政策判断時の指標であるIPCA（拡大消費者物価指数）は昨年12月までは同国のターゲットの上限近辺で抑えられていましたが、今年に入り上昇に転じ3月には8%台に達し推移しています。

②ブラジル・レアルは主要輸出品である鉄鉱石などの資源価格の調整に加え、米国の年内利上げ観測の強まりを背景としたドル高の影響を受けて弱含みに推移しています。政府・中央銀行は通貨安が原因となる資本流出を抑制するためにも利上げによる自国通貨の安定を図りたいとみられます。

《今後の景気、為替レートについて》

現在もブラジルの経済政策発動の優先順位として、インフレ抑制、財政収支の改善、次に景気回復が位置づけられていると考えられます。

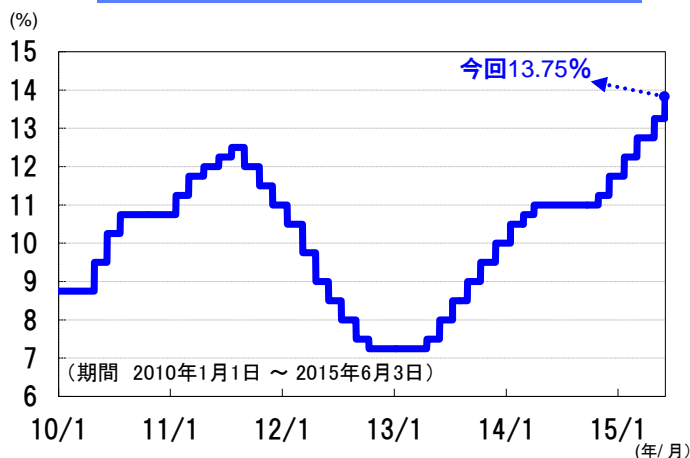
インフレについては、自国通貨安を受けた輸入インフレや国内労働生産性の低下が原因と考えられます。中央銀行では2015年のIPCAが8.39%に上昇すると公表しています。このところブラジル・レアルの水準は低下しましたがレンジ内での動きとなっており、輸入インフレについては今後、ペースの鈍化期待もあります。高金利によって景気への下押し圧力が強まっており、不況が長期化しています。次回会合でも利上げが予想されていますが、政策当局としては早期のインフレ圧力の鎮静化、金利の正常化を図りたいと考えられます。

財政収支の改善について、大統領は目標達成のためあらゆる手段を講じるとしています。投資適格の格付を維持するため財政規律を厳格化し継続しており、収支改善の兆しもみられます。ただ今しばらくは景気への下押し圧力が続くとみえています。国営石油資本企業であるペトロブラスの政界汚職問題も同社の決算発表後ひとまず沈静化しており、市場に安心感も広がりました。

ブラジル・レアルは、5月も政府による市場介入強化は見送られましたが、懸念されていた資本流出がそれほど起きていないこともあり、レンジ内での動きにとどまっています。但し、通貨当局が輸出促進のため自国通貨安を容認する可能性もあることから上値は限定的とみえています。

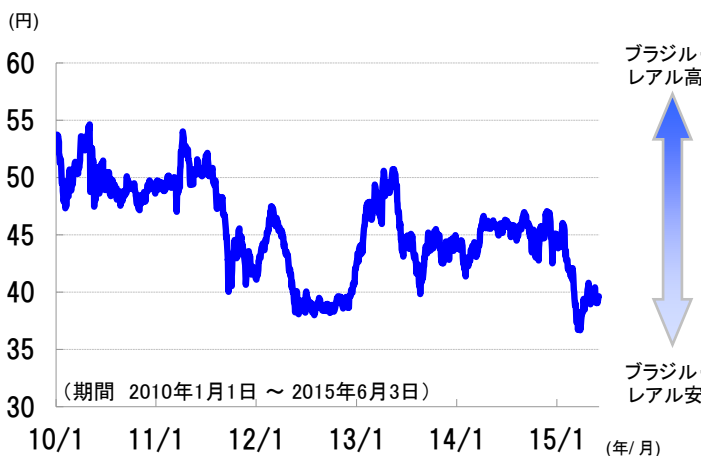
状況によっては安全資産選好の動きが強まる局面があることも考えられるため、当社でも引き続き同国に関わる市況動向を注視してまいります。

《ブラジルの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《ブラジル・レアルの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。